

「宿泊産業活性化ビジネス戦略に関する調査検討委員会」報告書のポイント

< 宿泊産業を取り巻く市場環境の変化 >

- 国内旅行の約90%が個人旅行(旅行者数ベース)。生活水準の向上や海外旅行経験の増加による成熟化。インターネット予約の増加によるオプションの多様化
- これに伴い、個人旅行者ニーズの細分化、連泊以上の滞在型や多様な体験メニューへの需要の増加

- 地域における旅行者向けの食事・風呂(温泉)や、第一次産業・地場産業での就業体験など、滞在・体験メニューを提供するプレイヤーが多様化

< 今後の宿泊産業活性化ビジネス戦略 >

従来型の旅館・ホテル

旅館・ホテルの事業再生

事業・財務の経営分析を実施
再生可能性の判断

債務の証券化等による過剰債務の解消
需要の高度化に対応するための前向きな設備投資の実現
(2人向け客室、滞在型客室、スパ・リラクゼーション施設等)

食事提供の様々なバリエーション

泊食一体型に加え、食事提供のあり方を多様化
泊食一体型 ← → 泊食分離型
(食事の自由度拡大など) (食事のみ、宿泊のみ提供)

様々な連泊スタイルへの対応
滞在期間の長期化への対応
宿泊施設の食事のレベルアップ
顧客に対する料金の内訳の明示

新しい形態の宿泊サービス

町家・古民家の活用

伝統的な生活空間の体験
その土地ならではの生活の体験

別荘などの活用

比較的長期間の滞在・体験

地域との協力による
食事、滞在・体験
メニューの多様化

地域性の向上
地域のにぎわい創出

< 留意点 >

地域ごとの多様性・関係者の主体性の尊重
地域の体制づくり(地域の関係者が行政を交えて議論し、農林業・漁業や地場産業等との関わりの中で食事、風呂(温泉)、滞在・体験メニューを提供)

助走局面では、新たな観光商品の開発・提供面での支援
顧客への効果的な情報発信(顧客に訴求するネーミング、インターネットによる情報発信)

モデル事業の実施などにより、地域の戦略的な取組みをベスト・プラクティスとして紹介し、全国への普及を促進